



Nissan Chemical
CORPORATION

日産化学株式会社

2021年3月期 第1四半期決算説明電話会議

2020年8月11日

2020 1Q実績

	2019実績	2020実績	増減	(億円)
	1Q	1Q	1Q	2020予想 (2020/5発表) 1Q
売上高	487	493	+6	498
営業利益	93	98	+5	85
営業外損益	7	6	-1	6
経常利益	100	104	+4	91
特別損益	9	0	-9	0
純利益 (1)	78	76	-2	68
EBITDA (2)	116	121	+5	-
EPS (円/株)	53.13	52.38	-0.75	-
売上高営業利益率	19.2%	19.9%	+0.7%	17.1%
為替レート(円/ドル)	110	108		108
原油(JCC)(ドル/bbl) (3)	72	31		65

(1) 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す

(2) EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 (3) 財務省貿易統計ベース

2

宮崎：宮崎です。よろしくお願いいたします。

それでは、まず2ページをご覧ください。今期の実績ですが、売上で493億、営業利益98億、当期純利益76億となりました。

2020 1Q決算 ハイライト

1. 前年同期比

- ◆営業利益は、前年同期93億円に対し、98億円と5億円の増益
 - －化学品は、メラミン・テピック・環境化学品の減収が大きく、減益
 - －機能性材料は、ディスプレイ・半導体の好調と、固定費の減少を主因に増益
 - －農業化学品は、アルテア増収も、フルララネルの出荷減(業績予想織り込み済み)、ラウンドアップの減収、固定費の増加により減益
 - －医薬品は、ファインテック増収も、リバロの減収により減益
- ◆純利益は、特別損益がなく(前期には投資有価証券売却益9億円計上)、前年同期78億円に対し、76億円と2億円の減益

2. 業績予想(2020年5月発表、p2、p10、p26参照)比

- ◆営業利益は、業績予想85億円に対し、98億円と13億円の増え
 - －化学品は、メラミン・テピック・環境化学品などが全般的に下ぶれし、利益下ぶれ
 - －機能性材料は、ディスプレイ・半導体の好調と固定費の下ぶれを主因に利益上ぶれ
 - －農業化学品は、売上高下ぶれ(フルララネルは上ぶれ、その他農薬が全般的に下ぶれ)も、固定費下ぶれのため、利益上ぶれ
 - －医薬品は、ファインテック堅調により利益上ぶれ
- ◆純利益は、業績予想68億円に対し、76億円と8億円の増え

3. 業績予想は修正なし

- ◆2Q及び通期の業績予想は、2020年5月15日発表より変更なし。
- ◆前回業績予想には、新型コロナウイルス影響を織り込んでいない。現時点においては、この影響は限定的と見込んでいる。

4. 自己株式取得完了(70億円、1,334千株、取得期間:5月18日～7月28日)

3

概要については、3ページをご覧ください。

ハイライトということで、まず前年同期比であります。営業利益につきましては前年同期が93億、今期が98億ということで、5億円の増益でございました。

セグメント別の売上・利益につきましては、この後、9ページ、10ページにございます。

化学品につきましてはメラミン・テピック・環境化学品の減少が大きく、減益となりました。

一方、機能性材料ですが、ディスプレイ・半導体の好調と固定費の減少を主因として、増益となりました。

農業化学品でありますけれども、アルテアは増収となりましたが、もともと予想されていたフルララネルの出荷減、それからラウンドアップの減収、R&D等の固定費の増加によりまして、減益となりました。

医薬品につきましては、ファインテックが増収でしたが、リバロの減収で減益となりました。

最終利益、純利益ですが、今期は特別損益がなく、前年の78億円に対して76億円と、2億円の減益となりました。前期は株式の売却益9億円がございました。

続いて、業績予想との対比であります。

営業利益につきましては、業績予想では 85 億円と開示しておりましたが、結果は 98 億円で、13 億円の上振れとなりました。

化学品は、メラミン・テピック・環境化学品が下振れし、利益が下振れました。

一方、機能性材料は、ディスプレイ・半導体の好調に固定費の下振れが加わりまして、利益の上振れとなりました。

農業化学品は、売上は下振れましたが、固定費が下振れたために利益は上振れという結果となりました。

医薬品は、ファインテックが堅調ということで、利益が上振れとなっております。

純利益についていきますと、業績予想では 68 億円と見ておりましたが、76 億円で、8 億円の上振れでございます。

3 番ですが、今回、業績予想の修正はございません。2Q、それから通期の業績につきましては、5 月 15 日の発表のとおりで、変更はないということであります。

前回、業績予想におきましては、コロナの影響を織り込んでいないと申し上げましたが、現時点において、この影響はトータルしますと限定的と見込んでおります。

続いて、株主還元であります。自己株式の取得 70 億円につきましては、7 月 28 日で 133 万 4,000 株を取得して終了しております。

営業外損益・特別損益

	(億円)			
	2019実績		2020実績	
	1Q	1Q	2019実績 年間	2020予想 (2020/5発表) 年間
営業外収益	9.0	8.4	26.1	25.2
受取利息・配当金	3.4	3.1	8.2	8.0
持分法投資損益	2.9	2.6	9.5	11.1
為替差益	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	2.7	2.7	8.4	6.1
営業外費用	2.6	2.4	12.6	13.8
支払利息	0.4	0.3	1.2	1.2
固定資産処分損	0.3	0.7	4.4	9.9
為替差損	1.7	1.0	2.4	0.0
その他	0.2	0.4	4.6	2.7
特別利益（投資有価証券売却益）	8.5	0.0	18.3	5.0
特別損失	0.0	0.0	8.3	0.0

5

続いて、5 ページをご覧ください。

営業外の損益でありますけれども、19 年につきましては収益、それから費用をネットアウトしますと 6 億 4,000 万円。今期はネットで 6 億円ということで、4,000 万円のマイナスでございました。

キャッシュフロー

(億円)

	2019実績	2020実績	2019実績	2020予想
	1Q	1Q	年間	(2020/5発表) 年間
営業キャッシュ・フロー	100	124	355	391
税金等調整前純利益	108	104	410	409
投資有価証券売却損益(－は益)	-9	0	-18	-5
減価償却費(1)	23	23	105	109
法人税等の支払	-40	-60	-84	-112
運転資金増減他	18	57	-58	-10
投資キャッシュ・フロー	-6	-15	-156	-119
設備投資	-23	-20	-89	-111
投資有価証券購入・売却	17	-1	25	6
その他(2)	0	6	-92	-14
財務キャッシュ・フロー	-298	-249	-252	-251
株主還元(配当)	-62	-70	-124	-231
株主還元(自己株取得)	-38	-41	-100	
借入金増減額	-175	-109	-19	-20
その他	-23	-29	-9	0
現金及び現金同等物に係る換算差額	-2	0	-3	0
現金及び現金同等物の増減額	-206	-140	-56	21
現金及び現金同等物の残高	156	166	306	327

(1) のれん償却費を含む

(2) 2019実績(年間): 殺菌剤クインテック事業買収-63、他-29

6

続いて、6 ページをご覧ください。キャッシュ・フローです。

引き続き、潤沢なキャッシュ・フローでございまして、19年の1Qと比べますと、20年1Qは、営業キャッシュ・フローでは24億円の増加。投資キャッシュ・フローは支出が9億円増えて、マイナス15億円となりました。これは前年の同期につきましては、投資有価証券の売却で17億円の手取り金があったということでございます。

続いて、株主還元を見ていただきますと、自己株取得とその他を両方ご覧ください。1Qではまだ自己株取得の途中ですので、昨年におきましては38億円が実績。それから、枠が60億円でしたので、枠の残22億円についてはその他で、信託銀行への預け金ということでマイナスがここに入っております。

今期につきましては70億円の枠ですが、実際に消化したのは41億円。残りの29億円はやはり信託銀行への預託ということで、その他に入っております。

結果的に、期末の現預金は166億円ということで、昨年同期に比べて10億円増えてございます。

貸借対照表

	2019/6	2020/3 (A)	2020/6 (B)	増減 (B) - (A)
流動資産	1,293	1,542	1,346	-196
現金預金	156	306	166	-140
売上債権	642	725	630	-95
たな卸資産	431	439	466	+27
その他	64	72	84	+12
固定資産	909	953	975	+22
有形固定資産	519	516	508	-8
無形固定資産	14	74	72	-2
投資有価証券*	326	309	346	+37
その他	50	54	49	-5
資産合計	2,202	2,495	2,321	-174
*投資有価証券内訳				
上場株式	228	207	241	+34
非上場株式	25	26	27	+1
関係会社株式	73	76	78	+2
合計	326	309	346	+37

(億円)

	2019/6	2020/3 (A)	2020/6 (B)	増減 (B) - (A)
負債	424	640	475	-165
買入債務	166	169	158	-11
借入金	90	246	137	-109
その他	168	225	180	-45
純資産	1,778	1,855	1,846	-9
株主資本	1,673	1,771	1,736	-35
その他有価証券 評価差額金	93	78	102	+24
為替換算 調整勘定	-6	-9	-8	+1
非支配株主持分	16	16	16	0
退職給付に係る 調整累計額	2	-1	0	+1
負債・純資産 合計	2,202	2,495	2,321	-174
・自己資本比率	80.0%	73.7%	78.8%	
・D/Eレシオ(1)	-3.9%	-3.4%	-1.7%	
・株主資本増減-35 = 純利益76 - 配当その他111				
(1) D/Eレシオ = (借入金 - 現金預金) / 株主資本				

7

続いて、7ページ、バランスシートをご覧ください。

例年と同様ですが、6月、1Qは売上債権の回収時期ということになりまして、こちらが大きく減っております。

無形固定資産のところ、昨年の6月は14億、今年は72億ということで、この大宗はキノキシフェンの買収に伴います、のれん等の無形固定資産の増加が入っております。

右にまいりまして、自己資本比率、欄外ですが、今期は78.8%ということで、前年同期は80%でございました。

2019-20 1Q セグメント別売上高⁽¹⁾⁽²⁾⁽³⁾

(億円)

	2019実績					2020実績		2020予想 (2020/5発表)				
	1Q (A)	2Q	3Q	4Q	計	1Q (B)	増減 (B) - (A)	1Q	2Q	上	下	計
化学	84	84	87	88	343	74	-10	85	85	170	186	356
ファイン	26	26	26	27	105	27	+1	32	32	64	67	131
基礎	58	58	61	61	238	47	-11	53	53	106	119	225
機能性	151	163	170	171	655	171	+20	169	172	341	360	701
農業化学	147	132	55	306	640	146	-1	152	108	260	395	655
医薬	19	15	16	20	70	15	-4	12	16	28	36	64
創薬	14	7	9	10	41	7	-6	7	8	15	13	28
FT	5	8	6	10	29	8	+3	5	8	13	22	36
卸売	175	158	175	171	679	182	+7	171	159	330	352	682
その他	49	49	51	75	224	48	-1	55	51	106	144	250
調整額	-138	-123	-139	-143	-543	-143	-5	-146	-123	-269	-294	-563
合計	487	478	415	688	2,068	493	+6	498	468	966	1,179	2,145

(1) セグメント間の内部売上高又は振替高を含む

(2) 医薬品セグメントでは、億円未満を四捨五入して表示しており、これにより合計値が合わない場合がある

(3) 2020年度より、ファインオキソコール(FO、化粧品原料)を基礎化学品からファインケミカルへ移管している

9

続いて9ページが、セグメント別の売上高でございます。

2019-20 1Q セグメント別営業利益⁽¹⁾⁽²⁾

(億円)

	2019実績					2020実績		2020予想 (2020/5発表)				
	1Q (A)	2Q	3Q	4Q	計	1Q (B)	増減 (B) - (A)	1Q	2Q	上	下	計
化学	9	-6	5	5	13	7	-2	12	0	12	15	27
機能性	40	44	47	39	170	53	+13	42	45	87	94	181
農業化学	45	49	-18	117	193	40	-5	36	31	67	117	184
医薬	4	1	1	3	9	-1	-5	-1	2	1	3	4
創薬	2	-2	-2	0	-1	-2	-5	-3	-1	-3	-6	-10
FT	2	3	2	4	11	2	0	1	3	4	10	14
卸売	5	5	6	5	21	7	+2	5	5	10	10	20
その他	1	0	1	5	7	0	-1	0	1	1	6	7
調整額	-11	-6	-8	-2	-27	-8	+3	-9	-8	-17	-13	-30
合計	93	87	34	172	386	98	+5	85	76	161	232	393

(1) 2019-20：新方式セグメント別営業利益(2020年3月期決算説明資料p18参照)

(2) 医薬品セグメントでは、億円未満を四捨五入して表示しており、これにより合計値が合わない場合がある

10

10 ページが、セグメント別の利益として、中ほどの列の B 引く A、こちらのほうが前年同期との比較になります。

化学でマイナスの 2、機能性でプラスの 13、農業化学でマイナスの 5、医薬品のマイナスの 5、全体でプラスの 5 という結果でございました。

その 1 列右側に、5 月の 1Q の予想値が入っております。化学品で 12、機能性で 42、農業化学品で 36、医薬品でマイナス 1 という数字でございませう。

化学品セグメント概況-(B) 2020 1Q 主要製品売上高成長率、収益動向

<主要製品売上高成長率>

	2020 1Q実績*	
	前年同期比	計画比 <small>(20/5作成、非開示)</small>
テピック	-9%	下ぶれ
環境化学品	-13%	下ぶれ
ファイン合計	+5%	下ぶれ
メラミン	-55%	下ぶれ
尿素・アドブルー	-5%	下ぶれ
高純度硫酸	+19%	下ぶれ
硝酸製品	-2%	下ぶれ
基礎化学品合計	-19%	下ぶれ

左記2製品グループの
2020年1Q実績ファインケミカル
売上高に占める割合: 72%

左記4製品グループの
2020年1Q実績基礎化学品
売上高に占める割合: 53%

<化学品収益動向>

	2019実績 (A)	2020実績* (B)	増減 (B) - (A)	2020予想 (20/5発表)
	1Q	1Q	1Q	1Q
売上高	84	74	-10	85
ファイン	26	27	+1	32
基礎	58	47	-11	53
営業利益	9	7	-2	12

*2020年度より、ファインオキシソール(FO、化粧品原料)を
基礎化学品からファインケミカルへ移管している

2020 1Q実績 <前年同期比>

- (ファイン) ◆ 減収: テピック一般(海外)・電材(車載向け)、
環境(プール向け)
- ◆ 在庫変動影響(プラス要因)
- ◆ 売上高増加(FO*移管影響+3億円)、営業利益増加
- (基礎) ◆ 増収: 高純度硫酸(半導体洗浄用途)
- ◆ 減収: メラミン国内(住宅着工減)・輸出(スプレッド重視で
数量減の方針)、尿素・アドブルー、硝酸製品
- ◆ 売上高減少(FO*移管影響-3億円)、営業利益減少
- (合計) ◆ 売上高-10億円、営業利益-2億円

2020 1Q実績 <2020/5業績予想比>

- (ファイン) ◆ 売上高下ぶれ: テピック一般・電材、環境
- ◆ 売上高下ぶれ、営業利益下ぶれ
- (基礎) ◆ 売上高下ぶれ: メラミン国内・輸出、尿素・アドブルー、
高純度硫酸、硝酸製品
- ◆ 売上高下ぶれ、営業利益下ぶれ
- (合計) ◆ 売上高-11億円、営業利益-5億円

12

それでは、各セグメントの説明にまいります。

まず化学品ですが、12 ページをご覧ください。左下に、各主要製品の前年同期、それから計画に対して上振れ、下振れ等を書いてございます。

まず、その下の説明のところ、20年の1Q実績、前年同期比、こちらと上の表をご覧ください。

ファインケミカルにつきましては、テピック一般は、やはり海外でコロナ影響がありマイナスとなりました。それから、テピックの電材向けですが、こちらも車載向けのプリント配線板が不調ということで、こちらもマイナスでございます。結果としてテピックは、前年同期比でマイナスの9%でございました。

それから、ファインケミカルにつきましては、在庫変動影響が約1億円プラスで出ております。結果として、売上が若干の増加で、営業利益も若干の増加という結果でございました。

続いて、基礎化学品でありますけれども、まず、増収になったのは高純度硫酸でございまして、プラスの19%。半導体の洗浄用途ということで、地合いが良かった関係です。

一方、減収ですが、メラミン国内、これは住宅着工の減少が大きく響いております。輸出につきましては、もともとスプレッド重視ということで、今年度は数量減の方針で、不採算取引の削減とい

うことをやっておりましたが、1Qだけをとりますと、実績でボリュームが6割程度減り、単価も低下しております。もともとの年初予想はボリュームで6割減でしたので、ほぼこのラインに従って動いております。結果として、メラミンは内外合計で、マイナスの55%。

一方、尿素・アドブルーにつきましては、やはりトラック、建機等のアドブルー向けが良くないというところで、こちらはマイナスの5%。硝酸製品もマイナスの2%ということで、基礎全体ではマイナスの19%となりました。

基礎としましては、売上が減少し、営業利益も減少しております。

化学品セグメント合計では一番下ですが、売上でマイナス10億、営業利益でマイナス2億円となりました。

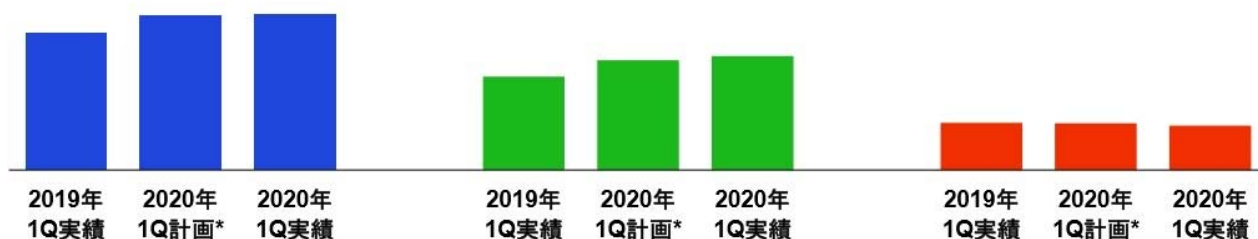
これを5月の業績予想比、業績予想につきましては、同じく表の右の上にございます。

まず、ファインケミカルですが、先ほど申し上げましたとおりテピック、それから環境の下振れということで、売上、利益ともに下振れております。

基礎化学品につきましても、メラミン、それから尿素・アドブルー、高純度硫酸、硝酸で、大半が下振れたというところで、売上下振れ、営業利益下振れ。

化学品につきましては、売上で11億円の振れ、利益で5億円の振れという結果となりました。

機能性材料セグメント概況 – (B) 2020 1Q 売上高構成



*20/5作成、非開示

< ディスプレイ材料 >

サンエバー：液晶配向材用ポリイミド

< 半導体材料 >

ARC®：半導体用反射防止コーティング材
多層材料：半導体用多層プロセス材料 (OptiStack®)

その他
新材料：EUV材料、三次元実装材
CMOSイメージセンサー材料等

< 無機コロイド >

スノーテックス：研磨材(シリコンウエハー、化合物半導体、半導体CMP等) 特殊銅板

オルガノゾル・
モノマーゾル：電子機器用フィルム表面処理、樹脂添加剤

オイル&ガス材料：シェールオイル・ガス探掘効率向上材

14

続いて、機能性材料にまいります。14 ページをご覧ください。

これは3セグメントにつきまして、19年の1Qの実績、20年の1Qの計画、20年の実績と並べてありますが、全体に占める割合はあまり変わっておりません。

機能性材料セグメント概況- (C) 2020 1Q 主要製品売上高成長率

主要製品	2020 1Q実績		主要製品	2020 1Q実績	
	前年同期比	計画比 (20/5作成 非開示)		前年同期比	計画比 (20/5作成 非開示)
サンエバー合計	+14%	上ぶれ	スノーテックス	+8%	上ぶれ
ディスプレイ材料合計	+14%	上ぶれ	オルガノゾル・モノマーゾル	-9%	下ぶれ
KrF (ARC®)	+26%	上ぶれ	オイル&ガス材料	-84%	下ぶれ
ArF (ARC®)	+19%	上ぶれ	無機コロイド合計	-6%	下ぶれ
ARC® 小計	+23%	上ぶれ			
その他半導体材料合計 (1)	+20%	下ぶれ			
半導体材料合計	+22%	上ぶれ			

(1) 多層材料 (OptiStack®)、EUV材料、CMOSイメージセンサー材料、三次元実装材等

15

続いて、15 ページをご覧ください。機能性材料セグメントの主要な製品の売上動向です。

まず左側の表、サンエバーにつきましては前年同期比でプラス 14%、これは計画に対して上振れております。

それから、半導体にまいりまして、KrF がプラス 26%、ArF がプラス 19%、ARC 全体でプラスの 23%ということで、いずれも上振れております。

その他半導体材料、プラス 20%。こちらは下振れております。

全体としまして半導体はプラスの 22%で、売上は上振れております。

右側が無機コロイドですが、スノーテックスがプラスの 8%で若干の上振れ。オルガノゾル・モノマーゾルはマイナスの 9%で下振れております。

オイル&ガスはマイナス 84%で下振れております。

機能性材料セグメント概況 – (D) 2020 1Q サンエバー モード別売上高

<モード別売上高構成>



<モード別前年同期比売上高成長率>

	2020 1Q実績	
	前年同期比	計画比 (20/5作成、非開示)
TN	↘↘	下ぶれ
VA	↗	下ぶれ
IPS	↗↗	上ぶれ
サンエバー計	+14%	上ぶれ

前年同期比売上高増減

+10～+19%	↗↗
+0～+9%	↗
-0～-9%	↘
-10～-19%	↘↘

16

続いて、16 ページをご覧ください。サンエバーのモード別の売上の動向でございます。

左下に矢印がございますとおり、TN は前年同期比で減収となりました。VA は増収。IPS、光とラビングを合わせますと増収ということで、IPS のところが大きく上振れております。その結果、全体として14%で計画を上振れております。

機能性材料セグメント概況 – (E) 2020 1Q 収益動向

<機能性材料収益動向>

	(億円)			
	2019実績 (A)	2020実績 (B)	増減 (B) - (A)	2020予想 (20/5発表)
	1Q	1Q	1Q	1Q
売上高	151	171	+20	169
営業利益	40	53	+13	42

半導体その他新材料: EUV材料、CMOSイメージセンサー材料、三次元実装材合計

2020 1Q実績 <前年同期比>

- ◆ DP増収、増益
光IPS増収(スマホ、非スマホ好調)、
ラビングIPS増収(非スマホ好調)、VA増収、TN減収
- ◆ 半導体増収、増益
ARC®増収、その他増収(多層材料・その他新材料増収)
ロジック好調維持、DRAM・フラッシュ回復
固定費減少4億円
- ◆ 無機減収、減益
スノーテックス増収(一般用途横ばい・研磨材増収)、
オルガノ・モノマーゾル減収、
オイル&ガス材料減収(シェールオイル市場低迷)
- ◆ 固定費減少合計4億円
- ◆ 売上高+20億円、営業利益+13億円

2020 1Q実績 <2020/5業績予想比>

- ◆ DP売上高上ぶれ、営業利益上ぶれ
光IPS下ぶれ(スマホ下ぶれ)、ラビングIPS上ぶれ(非スマホ上ぶれ)、
VA下ぶれ、TN下ぶれ
固定費下ぶれ3億円(プラス要因)
- ◆ 半導体売上高上ぶれ、営業利益上ぶれ
ARC®上ぶれ・その他下ぶれ(多層材料・その他新材料下ぶれ)
半導体市場全般好調
固定費下ぶれ5億円(プラス要因)
- ◆ 無機売上高下ぶれ、営業利益上ぶれ
スノーテックス上ぶれ(自動車向け等一般用途下ぶれ・研磨材上ぶれ)、
オルガノ・モノマーゾル下ぶれ、
オイル&ガス材料下ぶれ(シェールオイル市場低迷)
固定費下ぶれ2億円(プラス要因)
- ◆ 固定費下ぶれ合計10億円(プラス要因)
- ◆ 売上高+2億円、営業利益+11億円

17

続いて、17 ページをご覧ください。機能性材料の収益動向であります。

まず、左側の前年同期比。ディスプレイにつきましては、増収増益でございます。特に光のIPSの増収ということでスマホも伸びましたが、パソコン、タブレット等々の非スマホ向けが非常に好調でございました。

それから、ラビングIPSもここまでは減収傾向が続いておりましたが、この1Qは増収に転じております。これも非スマホ向けが好調という結果であります。

VAについては増収ということで、TNは減収でございます。

続いて、半導体材料ですが、こちらは増収増益。ARCについても増収、それからその他材料につきましても先ほどのおり増収でございます。ロジックが好調を維持して、それからDRAM、フラッシュも非常に良くなってきたところに加えて、R&Dを中心として固定費の減少も加わりました。

続いて、無機ですが、こちらは減収減益でございます。スノーテックスは研磨材用途、シリコンウエハの研磨であるとかCMP向け、こちらが増収になりましたが、一般用途は横ばいでありました。

オルガノとモノマーゾルは、若干の減収でございます。

オイル&ガスはシェールオイル市場の低迷ということで、先ほどのようなことで減収ございました。

セグメント全体で固定費の減少で4億円というのがございまして、結果として売上では20億円の増収、営業利益で13億円の増益という結果でございました。

これを右側の業績予想比と比較いたしますと、まずディスプレイですが、売上、利益ともに上振れております。中身を見ますと光のIPS、こちらはスマホ向けが下振れました。一方、ラビングIPSが非スマホ向けのパソコンであるとかタブレット、こちらが好調で大きく増えております。

VAは若干の下振れ、TNの若干の下振れ。一方、固定費も下振れておりますので、これはプラス要因となっております。3億円の増収です。

続いて、半導体ですが、売上、利益ともに上振れております。ARCについては上振れましたが、その他の材料につきましては下振れております。半導体全般が思ったよりも好調ということでございまして、それに固定費の下振れが5億円ありまして、非常に大きな利益の上振れとなっております。

無機ですが、売上はスノーテックスで若干の上振れ、それからオルガノ・モノマーゾルについては下振れ。オイル&ガスが下振れということで、固定費の下振れがございましたので、全体としますと無機は売上が下振れて、利益は上振れたという結果です。

セグメント全体で、10億円の固定費の下振れがございまして、売上は2億円増にとどまりましたけれども、営業利益では11億円の増収となりました。

農業化学品セグメント概況- (B) 主要製品連結売上高成長率(値引前)

主要製品名 (2019年 売上高順)	種類	2020 1Q実績	
		前年同期比	計画比 (20/5作成、非開示)
フルララネル	動物薬	-16%	上ぶれ
ラウンドアップ(1)	除草	-6%	下ぶれ
アルテア	除草	+20%	下ぶれ
タルガ	除草	+36%	上ぶれ
グレーシア	殺虫	+3%	下ぶれ
パーミット	除草	-42%	下ぶれ
ライメイ	殺菌	+26%	上ぶれ
クインテック	殺菌	-	下ぶれ
農業化学品 セグメント合計	-	-2%	下ぶれ

◆国内農業販売額第1位 (2017年10月~2018年9月)

⇒2020年1月22日開催

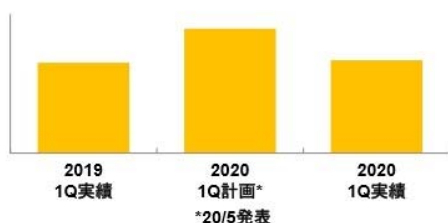
ラウンドアップの現状説明会資料参照

https://www.nissanchem.co.jp/news_release/

[news/n2020_01_23.pdf](https://www.nissanchem.co.jp/news/n2020_01_23.pdf)

(1) ラウンドアップALは2020年度1Qラウンドアップ売上高全体の34%を占める

◆グレーシア売上高 2020 1Q実績



◆クインテック事業(キノキシフェン)

- ・2019年11月米国コルテバ社より事業を買収、2019年12月販売開始
- ・クインテック = キノキシフェン(有効成分)を含む製品群中の主製品
- ・果樹、野菜用殺菌剤、主な市場は米国
- ・果樹(特にブドウ)や野菜のうどんこ病(カビの1種)の発病予防に非常に効果的

20

続いて、農業化学品に移ります。20 ページをご覧ください。左側に主要製品が順番に並んでおります。

フルララネルにつきましては、前年同期比マイナス 16%。ただ、これは計画に対しては上振れております。ラウンドアップはマイナスの 6%、これは下振れです。アルテアはプラスの 20%、非常に大きな伸びですが、計画よりもこれは下振れております。タルガはプラスの 36%、大きな伸びでして、これは上振れております。

グレーシアはプラスの 3%。農業化学品におきましては、これが一つ大きな期待外れでして、下振れております。パーミットはマイナス 42%、こちらは下振れております。ライメイはプラスの 26%となりました。

グレーシアの売上につきましては、この左下に小さなオレンジ色の棒グラフがありますがけれども、ご覧のとおり、1Q の計画値よりもかなり低かった数字がご覧いただけるかと思えます。

農業化学品セグメント概況- (C) フルララネル

◆フルララネル (Fluralaner)

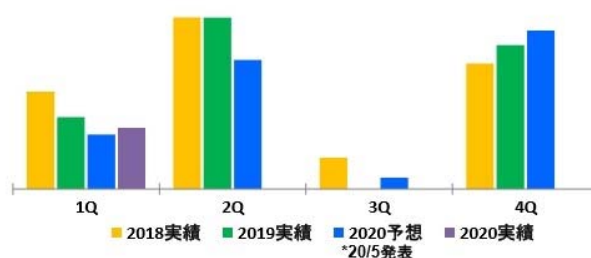
- BRAVECTO・EXZOLTの有効成分として、当社がMSD社*に供給
*MSD:米国メルク社のアニマルヘルス事業部門のMSD Animal Health 社の略称
- BRAVECTOシリーズ・EXZOLTは現在100か国で発売中
- これまでのペット用外部寄生虫薬とは異なる新たな作用機序を有している
- 化合物特許
 - ・2025年3月に終了するが、多数の国で延長制度あり
 - ・UK、ドイツ、フランス等一部EU諸国では、2029年2月まで延長済み、米国は延長申請中



◆ブラベクト (BRAVECTO)

- MSD社が開発したペット用外部寄生虫薬で、犬・猫のノミ、マダニの主要種に対し即効性に優れる
- さらに、通常1か月毎に投薬する既存製品より殺虫効果の持続性が長く、12週間**にわたって持続する
**クリイロコイタマダニは8週間
- 犬向けチュアブルタブレット(経口投与製剤)
2014年4月欧州、以降米国、日本等で上市、2019年7月中国上市
2020年7月1か月剤(子犬向け)米国販売承認
- 犬、猫向けスポットオン製品(経皮投与製剤)
2016年7月EU(猫)、2016年12月米国(猫)
2017年1月米国・ドイツ・オーストリア(犬)
2018年6月日本(猫)

■ 当社フルララネル 四半期別売上高(ロイヤリティ収入含む)



◆エグゾルト (EXZOLT)

- 鶏向けワクモ駆除剤(飲水投与)
2017年9月欧州、2018年6月韓国

◆ブラベクトプラス (BRAVECTO Plus)

- 猫向け外内部寄生虫スポットオン合剤
2018年7月EU、2019年12月米国

21

続いて、21 ページにまいります。

フルララネルですが、こちらでは1点だけ、既にプレスリリースしておりますけれども、ブラベクトというところの三つ目の黒丸。犬向けチュアブルタブレットのところにありますとおり、7月にメルクのほうで、主として子犬向けの1か月剤を米国で販売承認を受けております。

ご存じのとおり、ブラベクトの主要な犬向けは3カ月のチュアブルですので、これは非常に短い子犬向けの製品になります。

それから、その下、これは従来と予想を2Q変えておりませんが、今期につきましては前期に比べて減収ですが、3Q、4Qのほうが大きな数字が入っているのが、前年に比べてお分かりいただけるかと思えます。

農業化学品セグメント概況- (D) 収益動向

<農業化学品収益動向>

	(億円)			
	2019実績 (A)	2020実績 (B)	増減 (B) - (A)	2020予想 (20/5発表)
	1Q	1Q	1Q	1Q
売上高	147	146	-1	152
営業利益	45	40	-5	36

2020 1Q実績 <前年同期比>

- ◆ 増収: タルガ(輸出前倒し、海外混合剤向け)、アルテア(国内・輸出)、クインテック(輸出)、ライメイ(国内、輸出)、グレーシア(輸出)
- ◆ 減収: フルララネル(プラベクト在庫調整影響)、グレーシア(国内、低温で害虫発生小)、パーミット(輸出、19年度出荷増の反動)、ラウンドアップ(ML: 流通在庫減で減収、AL: 高価格品ALⅢシフトで増収)
- ◆ 固定費増加3億円
- ◆ 在庫変動影響+2億円(プラス要因)
- ◆ 売上高-1億円、営業利益-5億円

2020 1Q実績 <2020/5業績予想比>

- ◆ 売上高上ぶれ: タルガ(輸出前倒し、海外混合剤向け)、フルララネル(出荷前倒し)、ライメイ(輸出)
- ◆ 売上高下ぶれ: グレーシア(国内、害虫発生小・輸出)、ラウンドアップ(ML: 流通在庫減で下ぶれ、AL: 高価格品ALⅢシフトで上ぶれ)、アルテア(国内供給下ぶれ)、クインテック(輸出)、パーミット(国内)
- ◆ 固定費下ぶれ5億円(プラス要因)
- ◆ 在庫変動影響+3億円(プラス要因)
- ◆ 売上高-6億円、営業利益+4億円

22

続いて 22 ページ、農業化学品の収益の動向であります。

まず、左側の前年同期比であります。増収品目はタルガ。こちらは輸出の前倒しと、海外におきまして、メジャーなメーカーとの混合剤用途に使われるという新しい動きがございまして、こちらでプラスとなっております。

アルテアについては、国内で第2世代の製品群が出てまいりまして、これがプラスとなっております。

そのほかクインテック、ライメイ、グレーシアの輸出。この辺が増えております。

一方、減収でありますけれども、フルララネルは予定どおりの在庫調整で減収でございました。グレーシアにつきましては、減収要因でありますけれども、これはこの4月から6月にかけて非常に国内で低温が続きました、害虫の発生が非常に少なかったのが大きな要因でございまして。

パーミットにつきましては、昨年度の出荷増の反動で、もともと想定したとおりでありますけれども、これは昨年19年にEUでトウモロコシ向けの登録がされまして、そこで大きな出荷がありまして、その反動減であります。

ラウンドアップのところ、マックスロード、一般農家向けですが、こちらが流通在庫減で減収となっております。こちらはコロナ影響ともいえると思いますけれども、なかなか各販売店に行ってラウンドアップが売れて、その後にもう1回、剤の供給を行って新しく積んでいくことが営業の大きな活動なのですが、これがなかなかできなかったということで、流通在庫が減りっぱなしになっている状況でございます。

ALにつきましては、これは高価格品のIIIへのシフトが進んでおりまして、増収となりました。ただし、合わせますと減収であります。

固定費の動きですが、固定費はR&D、それからキノキシフェンの償却コスト等で3億円の増加、コスト増です。一方、在庫変動要因が2億円のプラスに効いておりまして、合計しますと売上ではマイナスの1億円、利益でマイナスの5億円となりました。

右側の予想対比であります。まず売上高で上振れたところ、これは先ほどのタルガ。それから、フルララネル、在庫調整が進んでおりYoYではマイナスですが、2Qからの前倒し出荷がございまして、これは上振れております。それから、ライメイは単純な見込み違い。

下振れましたのが、先ほど申し上げましたグレースアの国内。それから、ラウンドアップも先ほど申し上げました理由で、マックスロードが下振れ、ALが上振れであります。

アルテアにつきましては、国内で供給のところ若干、供給が足りなかったこともありまして、下振れております。それから、パーミットの国内の下振れは、こちらアルテアのシフトがあったということで、マイナスでございました。

固定費の下振れが一方、プラス要因として5億円ございました。在庫変動もプラス要因で3億円働いておりまして、合わせますと売上ではマイナス6億ですが、営業利益で4億円のプラスということで、ここは売上と利益が逆に動いております。

医薬品セグメント概況 – (B) 2020 1Q 主要製品売上高成長率、収益動向

<主要製品売上高成長率>

	2020 1Q実績	
	前年 同期比	計画比 (20/5作成 非開示)
リバロ	-48%	上ぶれ
ファインテック	+49%	上ぶれ
医薬品 セグメント合計	-20%	上ぶれ

<医薬品収益動向> (1)

	(1)			(億円)
	2019実績 (A) 1Q	2020実績 (B) 1Q	増減 (B) - (A) 1Q	2020予想 (20/5発表) 1Q
売上高	18.7	15.0	-3.7	11.9
創薬	13.6	7.4	-6.2	6.6
FT	5.1	7.6	+2.5	5.3
営業利益	3.9	-0.7	-4.6	-1.4
創薬	2.3	-2.2	-4.5	-2.6
FT	1.6	1.5	-0.1	1.2

(1) p9,10,37,38では億円未満を四捨五入して表示しており、これにより本ページの数字と合致しない場合がある

2020 1Q実績 <前年同期比>

- (創薬) ◆ リバロ減収(国内減収、輸出減収)
◆ 売上高-6.2億円、営業利益-4.5億円
- (FT) ◆ 増収
◆ 売上高+2.5億円、営業利益-0.1億円
- (合計) ◆ 売上高-3.7億円、営業利益-4.6億円

2020 1Q実績 <2020/5業績予想比>

- (創薬) ◆ リバロ売上高上ぶれ(国内上ぶれ、輸出上ぶれ)
◆ 売上高+0.8億円、営業利益+0.4億円
- (FT) ◆ 売上高上ぶれ
◆ 売上高+2.3億円、営業利益+0.3億円
- (合計) ◆ 売上高+3.1億円、営業利益+0.7億円

24

続いて、医薬品にまいります。24 ページをご覧ください。

左側に、リバロとファインテックの前年同期比の YoY がございます。

リバロにつきましては、その下の収益動向の説明も同時にご覧いただきたいのですが、国内については若干の減収、それから輸出が大きく減りまして、マイナスの 48%でございます。これでも予定よりも上振れた数字でございました。

一方、ファインテックにつきましては増収で 49%、これは上振れたことになりました。

医薬品全体では売上がマイナス 20%ですが、予定に対しては上振れております。

左下、前年同期比でありますけれども、リバロが減収、ファインテックが増収ということで、合わせますと売上でマイナスの 3.7 億、営業利益でマイナスの 4.6 億です。

これは右側の表をご覧くださいと、創薬と、創薬イコールリバロですが、ファインテックでそれぞれ売上と利益は示してございますので、動きが分かるかと思えます。

予想比でありますけれども、右側、リバロの売上高は上振れております。国内、輸出ともに上振れております。ファインテックも前倒しもございますが、純増部分、それから一部値上げ等もありまして、上振れております。

こちらは売上では 3.1 億円の上振れ、営業利益で 7,000 万円の上振れとなっております。

ファインテックのところ、19 年から 20 年にかけては、売上は 2.5 億円増えましたが、利益がマイナス 0.1 億円となっています。この大きな理由は原材料の値下げで、棚卸部分についての評価損が 1.2 億ほどございまして、この影響が大きくここに出しております。

ESGへの取り組み、外部からの評価

◆ ESGインデックス等

2017年～ 健康経営優良法人ホワイト500に4年連続認定

2019年9月 Dow Jones Sustainability Asia Pacific Index の構成銘柄に
2年連続で選定

「統合レポート2019」を発行

https://www.nissanchem.co.jp/ir_info/archive/ar/ar2019.pdf

2020年2月 CDP 水セキュリティにおいて「Aリスト」に初選定

2020年6月 S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数の構成銘柄に2年連続で選定
FTSE4Good Index SeriesおよびFTSE Blossom Japan Indexの
構成銘柄に選定

◆ ガバナンス

2019年4月 指名・報酬諮問委員会設置(取締役会の任意の諮問機関)

2019年6月 取締役等を対象に業績連動型株式報酬制度導入(株式給付信託)
社外取締役を1名増員し、3名体制へ(取締役は計9名)

◆ 東京証券取引所「企業価値向上表彰」表彰候補50社に選定

2019年8月 「企業価値向上表彰」の表彰候補として、上場企業約3,600社中の
50社に2年連続選定

25

続いて ESG 関連、25 ページをご覧ください。

ESG のインデックスというところでは、20 年 6 月 S&P/JPX カーボン・エフィシエントに 2 年連続で選ばれました。それから、FTSE の Good Index Series、Blossom Japan Index に採用されております。

2020予想(2020年5月15日発表、今回変更なし)

以下、2020予想に係る数値は、新型コロナウイルスによる影響について、想定することが困難なため織り込んでおりません。現時点において、この影響は限定的と見込んでおります。

	2019実績			2020予想			増減			増減率
	上	下	計	上	下	計	上	下	計	計
売上高	965	1,103	2,068	966	1,179	過去最高 2,145	+1	+76	+77	+4%
営業利益	180	206	386	161	232	過去最高 393	-19	+26	+7	+2%
営業外損益	6	8	14	6	5	11	0	-3	-3	-
経常利益	186	214	400	167	237	過去最高 404	-19	+23	+4	+1%
特別損益(1)	9	1	10	0	5	5	-9	+4	-5	-
純利益(2)	145	163	308	125	183	過去最高 308	-20	+20	0	0%
EBITDA(3)	227	265	492	205	285	490	-22	+20	-2	0%
EPS(円/株)	98.75	111.34	210.09	86.64	127.59	214.23	-12.11	+16.25	+4.14	+2%
配当(円/株)	42	48	90	46	50	96	+4	+2	+6	
配当総額	62	69	131	66	72	138	+4	+3	+7	
売上高 営業利益率	18.7%	18.7%	18.7%	16.7%	19.7%	18.3%	-2.0%	+1.0%	-0.4%	
ROE	-	-	16.9%	-	-	16.4%				-0.5%
為替レート(円/ドル)	109	109	109	108	108	108				
原油(JCC)(ドル/bbl)(4)	69	67	68	65	65	65				

(1) 2020予想: 投資有価証券売却益5億円 (2) 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す (3) EBITDA = 営業利益 + 減価償却費
(4) 実績は財務省貿易統計ベース

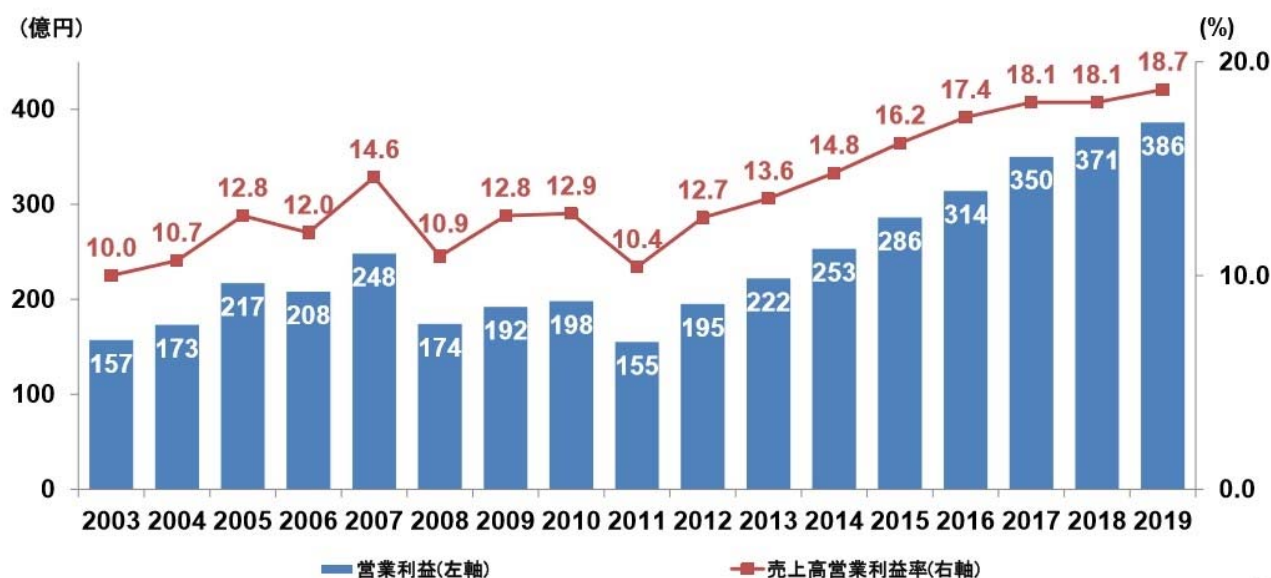
26

26 ページをご覧ください。

これは5月に発表いたしました年間予想、上下に分けました予想であります。先ほど申し上げましたとおり、この数字につきましては今回の変更はございません。

当社の特徴- (A) 売上高営業利益率

- ◆ 長期にわたり安定的かつ高い売上高営業利益率を維持
(2003年度以降17年連続10%以上)



27

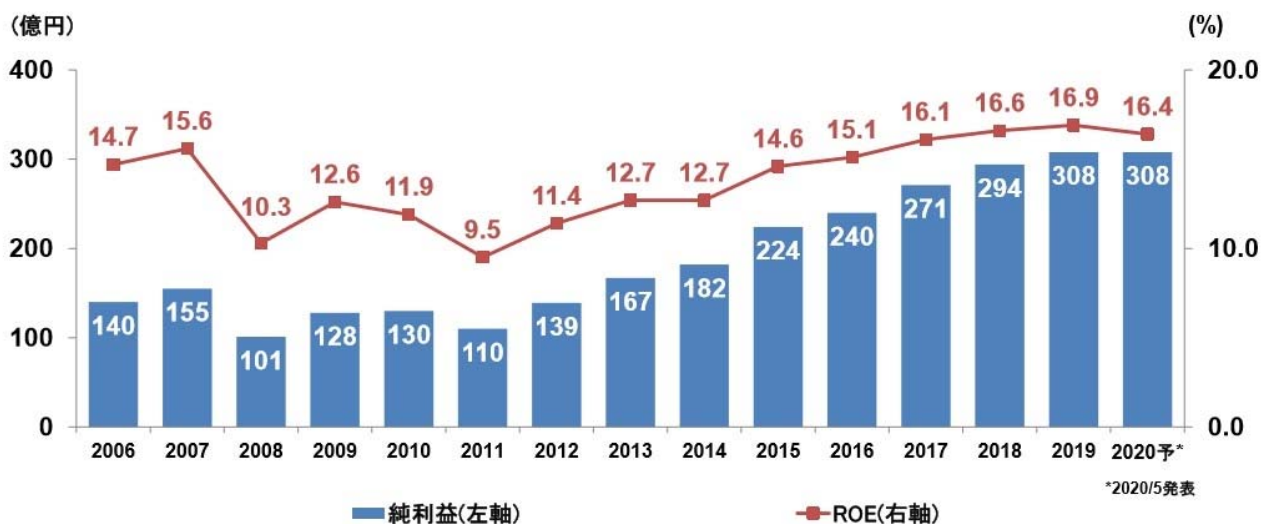
続いて 27 ページ以下、何度か説明会にご出席された方につきましては既にご存じかと思いますが、初めての方もいらっしゃると思いますので、簡単に当社の特徴についてご説明いたします。

まず 27 ページですが、売上高営業利益率。

大変浮き沈みの激しい化学業界でございますけれども、当社の場合は 2003 年から一貫して 10% 以上の利益率を保っております。特に最近では 18% 台でこの 3 年間は推移しております。

当社の特徴- (B) ROE

- ◆ ROEを従前より最重要の経営指標とし、高水準を維持
- ◆ 2016年度以降は14%以上維持を目標とし、2016-2018年度達成
- ◆ 中期経営計画(2019-2021年度)では16%以上維持が目標
- ◆ 2019年度実績は16.9%



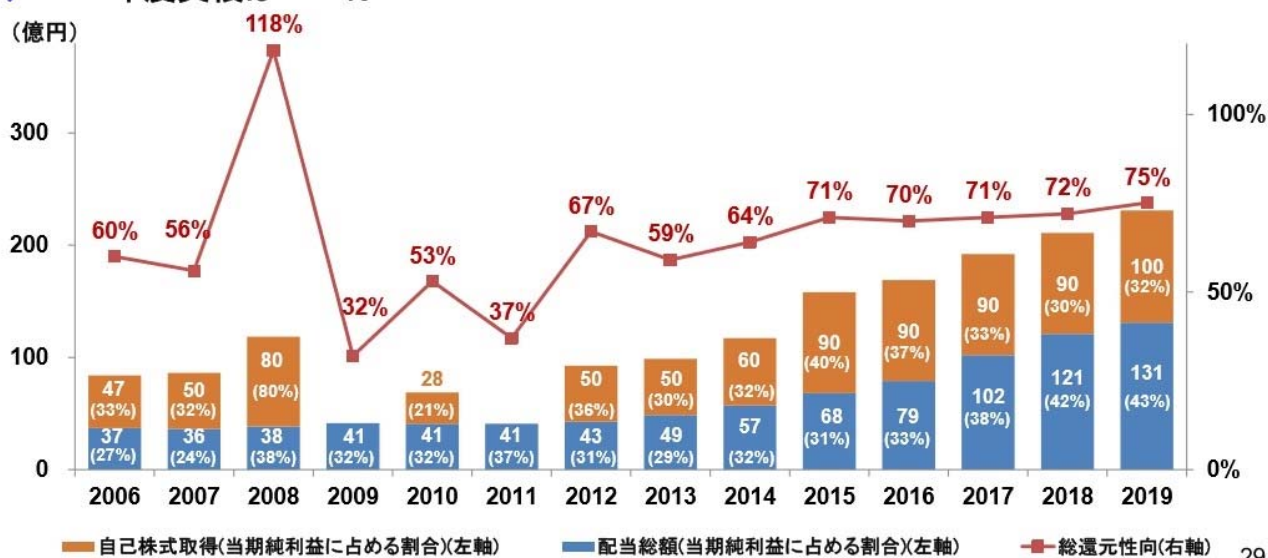
28

28 ページをご覧ください。

当社にとっての最大の重要な経営指標は ROE でございます。ROE 目標は 16%以上というのが現在の中計。実績につきましては、19 年は 16.9%でございます。

当社の特徴- (C)株主還元 (総還元性向)

- ◆ 配当と自己株式取得による株主の皆さまへの積極的な利益還元の結果、近年は60%-70%で推移
- ◆ 2016年度以降は、総還元性向70%維持を目標とし、2016-2018年度達成
- ◆ 中期経営計画(2019-2021年度)では、2019年度72.5%、2020年度以降75%が目標
- ◆ 2019年度実績は75.1%



29

続いて、29 ページをご覧ください。

総還元性向につきまして、対外的にコミットさせていただいております。現在は、中計の中では20年度は75%ということコミットしておりまして、19年につきましては1年早く75.1%ということで、この数字を達成しております。

当社の特徴- (D)株主還元 (配当性向)

- ◆ 2015年度30.7%から段階的に引き上げ、2018年度実績41.5%
- ◆ 中期経営計画(2019-2021年度)では
2019年度42.5%、2020年度以降45%が目標
- ◆ 2019年度実績は42.8%



30

その中でも 30 ページにまいりまして、配当性向です。

順次上げてきておりまして、19 年度で 42.5%、20 年度は 45%を目標というところで、19 年実績は 42.8%でございました。

したがって、20 年は総還元 75%ですが、自己株で 30%、配当で 45%が目標値でございます。

当社の特徴－(E)株主還元(自己株式取得)

- ◆ ROE向上を目的に2006年度より開始
- ◆ 2006-19年度取得総額825億円、4,089万株(取得開始前発行済株式の21.8%)
- ◆ 2006-19年度取得株はすべて消却済

2006-2019年度 自己株式取得実績

(1) 単元未満株式買取、業績連動型株式報酬制度導入に伴う自己株式取得(166千株)を除く
(2) 単元未満株式、業績連動型株式報酬制度導入に伴う自己株式取得(166千株)を含む

年度	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	合計
自己株式取得総数(千株)(1)	3,500	3,399	7,355	0	2,167	0	6,372	3,263	2,764	3,333	2,621	2,292	1,682	2,138	40,886
取得価額総額(億円)(1)	47	50	80	0	28	0	50	50	60	90	90	90	90	100	825
自己株式消却総数(千株)	3,000	3,635	7,000	0	3,000	0	6,000	4,000	3,000	2,000	2,000	3,000	2,000	3,000	41,635
発行済株式総数(百万株)	185	181	174	174	171	171	165	161	158	156	154	151	149	146	
期末自己株式数(千株)(2)	1,367	1,233	1,660	1,709	885	886	1,258	522	287	1,621	2,242	1,535	1,218	523	
株主総還元性向 (配当+自己株式取得)(%)	60	56	118	32	53	37	67	59	64	71	70	71	72	75	

◆ 取得

年度	2017			2018			2019			2020
	上	下	計	上	下	計	上	下	計	5月18日～7月28日
自己株式取得総数(千株)(1)	1,304	988	2,292	976	706	1,682	1,270	868	2,138	1,334
取得価額総額(億円)(1)	50	40	90	50	40	90	60	40	100	70
自己株式消却総数(千株)	3,000	0	3,000	2,000	0	2,000	2,000	1,000	3,000	

◆ キャッシュマネジメント(単体ベース)

目標現預金残高水準

$$= \text{必要下限額} + \text{流動性リスク対応} [1/3 \times (\text{長期借入金年間返済予定額} + \text{短期借入残})] + \text{偶発リスク対応}$$

31

31 ページをご覧ください。

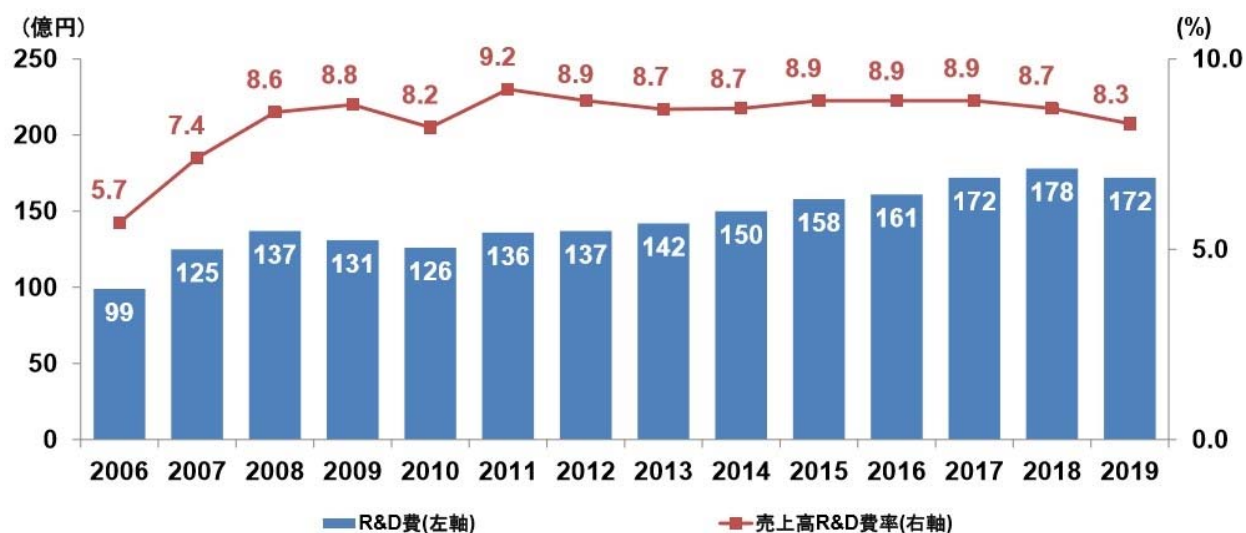
自己株取得ですが、2009年、2011年を除きまして、毎年行っております。

毎年、その期に買った自己株につきましては全株消却するというので、19年までいきますと約4,100万株買いまして、4,160万株消却してございます。

取得ですが、先ほど申し上げましたとおり、2020年度、今年度は今までで、70億円で133万株を取得しております。

当社の特徴- (F-1)研究開発

- ◆独自の革新的技術で社会の要請に応える未来創造企業
- ◆R&Dを重視し、売上高R&D費率は8-9%と高水準を維持
- ◆総合職の約40%はR&D要員



33

続いて、33 ページ。

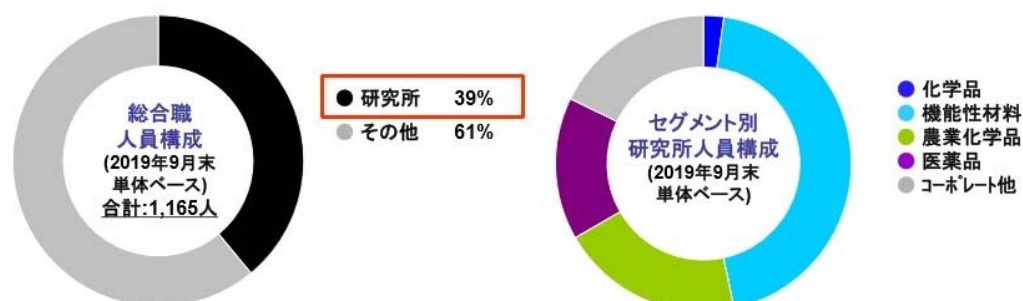
当社の特徴、最後でありますけれども、研究開発費ということにして、ずっと売上の8%から9%をキープしております。

当社の特徴- (F-2)研究開発

◆セグメント別研究開発費

セグメント	2019年度実績				
	売上高 (億円)	営業利益 [*] (億円)	売上高 営業利益率(%)	R&D費 (億円)	売上高 R&D費率(%)
化学品	343	13	3.8%	4	1.2%
機能性材料	655	170	26.0%	77	11.8%
農業化学品	640	193	30.2%	46	7.2%
医薬品	70	9	12.9%	25	35.7%
コーポレート他	-	-	-	20	-
その他共通合計	2,068	386	18.7%	172	8.3%

*セグメント別営業利益は新方式にて記載(2020年3月期決算説明資料p18参照)



34

それから、総合職の約40%がR&D要員ということで、34ページの左下にドーナツグラフがありますけれども、総合職1,165人のうち約450人が研究員になります。

2020予想(2020年5月15日発表、今回変更なし)

以下、2020予想に係る数値は、新型コロナウイルスによる影響について、想定することが困難なため織り込んでおりません。現時点において、この影響は限定的と見込んでおります。

	2019実績			2020予想			増減			増減率
	上	下	計	上	下	計	上	下	計	計
売上高	965	1,103	2,068	966	1,179	過去最高 2,145	+1	+76	+77	+4%
営業利益	180	206	386	161	232	過去最高 393	-19	+26	+7	+2%
営業外損益	6	8	14	6	5	11	0	-3	-3	-
経常利益	186	214	400	167	237	過去最高 404	-19	+23	+4	+1%
特別損益(1)	9	1	10	0	5	5	-9	+4	-5	-
純利益(2)	145	163	308	125	183	過去最高 308	-20	+20	0	0%
EBITDA(3)	227	265	492	205	285	490	-22	+20	-2	0%
EPS(円/株)	98.75	111.34	210.09	86.64	127.59	214.23	-12.11	+16.25	+4.14	+2%
配当(円/株)	42	48	90	46	50	96	+4	+2	+6	
配当総額	62	69	131	66	72	138	+4	+3	+7	
売上高営業利益率	18.7%	18.7%	18.7%	16.7%	19.7%	18.3%	-2.0%	+1.0%	-0.4%	
ROE	-	-	16.9%	-	-	16.4%			-0.5%	
為替レート(円/ドル)	109	109	109	108	108	108				
原油(JCC)(ドル/bbl)(4)	69	67	68	65	65	65				

(1) 2020予想: 投資有価証券売却益5億円 (2) 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す (3) EBITDA = 営業利益 + 減価償却費
(4) 実績は財務省貿易統計ベース

26

以上でご説明は終わりますが、もう一度年間予想のところ、26ページへ戻っていただきたいと思っております。

20年の予想でありますけれども、上下分けますと上期が161億、下期が232億ということで、19年に比べますと上期で減益、下期で増益、年間で増益、という計画でございます。

したがって、上期はもともと減益予想でございますので、1Q終わったところですが、2Q終わったところで減益となりましても、決して驚かれないようにということでございます。もともと下期のほうが、利益が大きい予想というのが、今期の特徴でございます。

以上、1Qの決算について、ご説明を終わらせていただきます。

質疑応答

<質問者 1>

Q: 先ほどお話の中で、何度か固定費のところが出ていましたので、もう一度整理させていただきたいのですが、機能性材料のところではトータル 10 億円、あと農業化学品のところでは 5 億円、それぞれ固定費が予定より出ていない状態ですが、もう一度この背景を教えてください。

あと、年間を通した場合、この固定費の抑制に関しては、通期このままの状態で行くのか。それとも、どこかで固定費が増えるようなかたちで反動が出るのか。その辺りを教えてください。

A: 固定費のところは、例えば出張旅費であるとか交際費であるとか、その辺は減ったままでいくと思います。R&D のところの固定費の下振れが、本当に下振れているところと、それから遅れているところ、この辺が今のところ判然としませんので、なんともいえませんが。全体としますと固定費は、程度は分かりませんが、下振れるだろうと思っています。

Q: 例えば、今回の 1Q で抑制された 15 億円分が、そのまま年間通しても残る。要は当初の予定に対しては 15 億円、固定費の負担増がなくなると考えてよろしいですか。

A: そこまでは残らないと思います。それは遅れている部分がやっぱりありますので、遅れているのは当然ながら出張ができないとか、お客様とのコミュニケーションが進まないとか、そういうこともありますので。これは必死に挽回するところもありますし、それから実際に節約できているところもあるので、ここは今の段階ですと判然としませんが、15 億円がそのまま貯金になるとは思っていません。

残ると思いますけれども、申し訳ないですけれども、今の段階ですとその程度しか申し上げられないです。

Q: 分かりました。二つ目ですが、サンエバーのところ教えてください。

1Q 全体で売上高が 14%伸びて、特にラビング IPS のところ、これまでずっとここはマイナス傾向が続いていたのが、プラスに転じたというところ。

併せて、光が相変わらず強いということですので、この特に IPS、ラビングと光の状況、この 1Q どうだったのかというところと。

あと、2Qに向けてどう見ていらっしゃるのか。例えば、ユーザーの在庫積み増しの影響等、この1Qあったのかどうかを確認させてください。

A: まず、IPS ですけれども、光 IPS は先ほど申し上げましたとおり、YoY でいきますと非スマホ、こちらの伸びが非常に大きかったということです。スマホの伸びは、非スマホに比べますと非常に小さかったということになります。

したがって、予想比ですと、光 IPS は、非スマホ向けが大きく上振れて、スマホ向けが下振れた感じなのですが、ラビングにつきましては、これはやはり良かったのはタブレット、それからその他の中小型ですね。この辺が良かったということになります。

2Q に向けては、やはり非スマホのところは引き続きパソコン、それからモニター、タブレット、好調が持続すると見ております。

ただ、スマホのほうも、2Q については買い替え需要が弱いのかなと見ていますけれども、その後また新機種等が出てくるので、その辺で挽回してくるだろうと見ております。

Q: 例えば、ユーザーの在庫積み増しの動きは、この1Qあったのでしょうか。

A: それはあまりないです。そういう需要ということではなくて、実需の需要のほうが多かったと思っています。

<質問者 2 >

Q: まず、サンエバーのスマホ向けが下振れたということで、期初どのような想定をお持ちだったのかということと、下振れの原因がどういったところにあるのか。その点をもう少し詳しく教えていただけますでしょうか。

A: これは、それぞれのお客様の我々は数字を読んでいるわけですが、やはり我々の期初の見立てですと、末端の需要とすると YoY で 10% ぐらい落ちるのかなと見ていました。これはコロナ影響等々、世界的にあったと思うのですが、実際には思ったよりも弱かったということになりますね。

OLED が強かったということもないと思いますので、ここはやはり現状の状況次第ということで、下期に期待しているというところですね。それを打ち破るかたちで、非スマホが伸びているというところですね。

Q：分かりました。そうしますと、現状だと期初想定 of 10%程度の需要減は変える必要はないと、そういうご判断。

A：そうですね、はい。

Q：分かりました、ありがとうございます。あと、農業化学品のところでも2点。

まず、グレーシアの下振れ要因として挙げられている、国内の低温で害虫発生少ということなのですけれども、これは、今期は下振れてしまうという理解をしたらよろしいですか、今年に関して。これは、マイナス面は出てしまって、これが残ってしまうと。

A：まだ取り返せるタイミングはあるので、頑張るってやるということだと思います。これは野菜とお茶向けですので、虫がちゃんと出てくれば取り返せると思います。ただ、この部分が全部取り返せるかどうかは、これはなかなか疑問だと思いますけれども、リカバリーはしたいと思っています。

Q：分かりました、ありがとうございます。追加で、フルララネルに関して教えていただきたいのですが、想定よりも出荷が前倒しだったということなのですか。

こちらは、今後2~3年に向けた在庫調整を想定されているとは思いますが、この考えには今のところは変更がないというか、見直す予定はない考えなのですか。

A：そうですね。ここはそういうふうには全く、このQごとの影響だと思っていまして、年間の見通しも変えておりませんし、その先も今、変えるような現象ではないと思っています。

<質問者3>

Q：1Qから2Qに関しまして、このままいくと35億の減益なのですか、見直されていないところだと思うのですが、先ほどの固定費が2Qにかけて増えるということなのか。

あと、在庫が、棚卸資産が全般的に結構、増えておりまして、一部で在庫影響があったというお話でしたけれども、この2Qはこの在庫調整によって利益が結構、減る部分も見られているのか。この辺の固定費と在庫の動きを、1Qから2Qに対してお願いできますか。

A：まだ精査していませんけれども、固定費はやはり後ろ倒しになった部分が出てくるだろうというところでは、マイナス要因があることと、ご指摘のとおり、在庫のところは1Qは積み上がったので、2Qは多分取り崩しにいきますので、このマイナス要因があると思っています。

セグメント別にいうと、やはり化学品は今ご説明しましたとおり、1Qのマイナスの状況が多分、2Qも続くだろうと。一方、機能性材料はディスプレイ、半導体ともに好調が持続すると思っています。

それから、農薬は予想通りか少し上振れぐらいということでして、それと今の固定費とか在庫の要因とかを入れていくと、2Qで予算を上回っていくのはちょっと厳しいのかなと思っています。13億の今、貯金があるわけですけども、これがどのぐらい残せるのかと思っているというところですね、予算比でいきますと。

Q: 在庫が多いのは、先ほど化学で1億円というのがあったのですが、ほかはどんな感じでしょうか。

A: 農薬も2億円ほど積み上がっていますので、プラス要因で入っていますね。

Q: この金額でも3億ぐらいですね、この積上げ。

A: そうですね。

Q: 分かりました。あと、半導体材料に関しまして、かなり全般好調なのですが、その他半導体材料、EUV等とあるのですが、この辺の伸び率の差はいかがでしょうか。

A: 半導体材料のその他のところですね。こちらはEUVのほうは売上ではそんなに伸びていませんで、下振れているのですが、これは会計のテクニク上の問題で。

ご説明したことはあると思いますが、売上ではなくて試験品の控除。サンプルで出荷しているものは売上に計上しないで、試験研究費から控除する会計になっていますので。ですから、売上を見るとそんなに伸びていない。ただ、試験品の控除に回った部分を戻すと、それはそれなりに伸びていることになります。

Q: この売上下振れというところも、それは関係がありますか。

A: そうですね。ですから、ここは単純に売上で見ているので、試験品の控除に回った部分は売上の下振れと表現をしています。

Q: そういことですか。先ほど、ディスプレイで顧客の在庫積み増しはどうかというお話がありましたけれども、半導体についてはどうなのかと。今、7-9月にかけてはどう見られていますでしょうか。

A: 半導体については、お客様のほうがほとんどフル稼働に近づいているのかなと思っています。在庫の積上げという要素はあまりないと思っています。

それから7-9月についても引き続き好調と思っていまして、それに我々がついていくという今、状況ですね。

Q：これは化学品の半導体絡みも同じような動きですね。

A：そうですね。

<質問者4>

Q：半導体材料の中のARCですが、ArFよりもKrFの伸び率が大きい理由と、あと地域別で濃淡というか、こっちは強いけどこっちはあんまり強くないとかいうことがあったら教えてください。

A：KrFのところは結局、ずっと今のところ下がってきたのが今期は戻したというか、増収に転じたところで、もともと下がってきたのが増収に転じたので、大きく見えていると思うのですが、実数的にはやっぱりArFのほうが大きいというところですね。

それから、地域別にいきますと、これは韓国も台湾も中国も全部、かなりプラスで動いていますね。

Q：そうすると、地域別にはそんなに差がないという感じですか。

A：そうですね、はい。

Q：分かりました。それから2点目は、フルラネルのところですが、1Q上振れたのは、ロイヤリティのほう为上振れたと思っていればいいのですか。

A：いや、ロイヤリティについては、1Qはゼロです。ロイヤリティは、1月から6月分のブラベクトの売上に対して8月に入るので、2Qに計上されます。1Q上振れたのは全部原薬の売りですね。

Q：原薬のほう为上振れたということですね。

A：そうですね。原薬の出荷が2Qから1Qに一部、前倒しになった。

Q：マスコミとかでいわれている巣ごもり消費の一環として、ペットの需要がかなり増えているのではないかということが言われているのですが、そのプラス影響は考えられそうですか。

A：それはなかなか、我々では判読しにくいところですね。

<質問者 5 >

Q: ラウンドアップの流通段階での在庫の動きは、ちゃんと積み増せているのでしょうか。多分、相当実需が強いと思うのですけれども、この辺はいかがでしょうか。

A: ラウンドアップの1Qが前年比マイナスで計画比下振れたのは、きっちり営業ができなくて。普通は売りがだんだんそれぞれのところで、お店で在庫がなくなれば、我々が駆けつけていって積んでいくというか、増やしていく、補給していくことがやれるのですけれども、それがなかなかうまく、やっぱりコロナの関係で出向いてできなかったです。

どんどん流通の在庫が減っている今、状況にあります。ですから、それをなんとか今、この2Q以降で挽回しようとしているところです。

Q: まだあまり補充はできていないところですか。

A: そうですね。

Q: あと、先ほどのフルララネルの動きなのですけれども、世界的にペット需要がすごく強くて、それもあって前倒しがあったのではないかという気もしないでもないですが、それはちょっと早過ぎですか。2~3年かかる在庫調整は、もっと早期に終わりそうだという観測はまだないですか。

A: それはないです。単純な彼らの生産スケジュール繰りだと思っていまして、それは全くそういう修正された予想等は聞いていません。

<質問者 6 >

Q: 化学品は、先ほどのご説明だと2Qも相変わらず、まだ状況的には厳しいのかなということをおっしゃっていたと思うのですけれども。

2Qはいつも富山の工場の定修が入ってきますので、基本的に収益的悪化するのですけれども、それを例えば除いた状態でも、さらにまだ1Qから2Qは悪くなるような感じなのか。

また、テピックとかメラミンのところの、足元の状況も教えていただけないでしょうか。

A: 予算比でしか我々見ないので、予算比で語るとすると、予算比、それはもともと定修等で落として見ているわけなのですけれども、それをやっぱり下回るレベルになってくるだろうと思っています。

メラミンについては、マーケットの輸出価格は、もともとのメラミンのアジアの市況予想が、1Qは1,000ドルと見ていたのですけれども。

ふたを開けたところは4月が1,000ドル、5月が1,000ドルなのですが、6月が940ドルというところで、やはり少し下がってしまったというところで、がくんとは下がっていませんけれども、こういった状況で多分、推移していきだろうなと思っています。

それから、テピックはやはり海外の一般のところは、これは建築需要と相関するので、アメリカ辺りでの活動が弱いというところですね。テピックはプリント配線板のところで、車載向けが弱いのが続きますので。そういうことでいうと、あまり状況は変わらないのかなと見ています。

環境化学品はやはりプールですね。これが、どうしてもマイナスだろうと思っています。

Q: そのメラミンの輸出価格について、6月に940ドルというかたちで落ちたのは、これは中国ではもうある程度、回復してきていると思うのですけれども。逆に、中国の稼働、安価品がまたアジアのほうに出てきて、マーケットを荒らしているのかを確認させていただきたいのと。

あと、テピックの米国向けですが、こちらもどちらかというと4-6月よりは7-9月のほうが、経済全体的には少し回復には向かうのかなと思うのですが、そういうことはあまり見通せない状況でしょうか。

A: メラミンについては、やはり中国品の安売り品は収まっていないので、引き続き出ているので、やはりここは悪さしているというところですね。

アメリカのほうは、これは戻ってくればいいんですけれども、そこまではまだ自信が持てない状況ですね。

以上